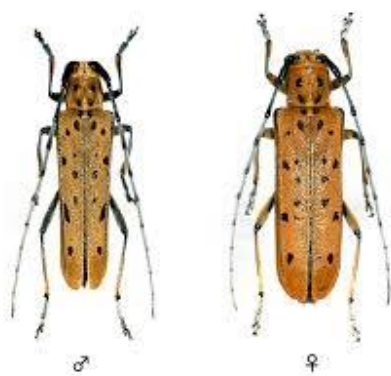


シナカミキリ

澄川森林で薪割をしていました。玉切り材に小さなカミキリが飛んできて止まりました。そろりとデジカメをポケットからとりだして撮影。動かずにいてくれたのできれいに撮れました。画像の記録は2016年6月21日13時49分です。

カミキリたちは個性的な装いをしているのが多いので出会いが楽しいのです。このシナカミキリはご覧のとおり、かなり粋な装いであります。大きさは13~20ミリとカミキリとしては小型です。出現時期は5~8月。

名前のとおり幼虫はシナノキの材を食べて育ち、成虫もシナノキやヤマブドウの生葉を食べるとのことなので、シナノキやその近縁のオオバボダイジュが多い澄川森林の住虫です。札幌市の街路樹にも使われています。分布はシナノキと重なりますので北海道から本州、四国となっています。



ネットで見つけた雌雄を比較した映像をご覧ください。甲虫類に共通しますように雌の方が若干太目です。シナノキは材質が軟らかくて軽いので、燃えはしますが、火持ちがよくなくすぐに燃え尽きてしまいますので薪としては嬉しくありません。軟らかいことが喜ばれてアイヌの木彫り用材として数々の観光土産になっています。

止まった近くにシナノキの材が紛れていましたので、その匂いを嗅ぎつけたのでしょう。ちょいと触って脅

かしますと、元気に飛び去りました。

斧を使つての薪割に久々の挑戦でした。当会員の男たちは昔取った斧柄で、皆上手です。動力機械式の薪割機も装備していますが、斧による人力の方がよほど早いのです。しかし、少年の頃から薪割とか餅つきとかは任務の一部でありましたが、後期高齢者として久々のことなので狙った位置を撃打する精度が落ちていて、真っ二つに割れなかつたりするわけで、腕が落ちたことを自覚せざるを得ません。

振り下ろすのは斧の重さを生かせばよいので力はあまり使いませんが、振り上げる方に力を使います。めげずにやっているうちにやや精度が高まってきますので、頑張る羽目になりますが、周りから年寄りの冷や水とばかりに、休憩を勧告されることにもなりました。やれやれ。

